

☆聖土曜日(4月11日)の聖書朗読☆

※主任司祭からの解説があります。

第一朗読 (出エジプト記 14章15節~15章~1a節)

その日、追い迫るエジプト軍を見て、イスラエルの人々が非常に恐れたとき、主はモーセに言われた「なぜ、わたしに向かって叫ぶのか。イスラエルの人々に命じて出発させなさい。杖を高く上げ、手を海に向かって差し伸べて、海を二つに分けなさい。そうすれば、イスラエルの民は海の中の乾いた所を通ることができる。しかし、わたしはエジプト人の心をかたくなにするから、彼らはお前たちの後を追って来る。そのとき、わたしはファラオとその全軍、戦車と騎兵を破って栄光を現す。わたしがファラオとその戦車、騎兵を破って栄光を現すとき、エジプト人は、わたしが主であることを知るようになる。」イスラエルの部隊に先立って進んでいた神の御使いは、移動して彼らの後ろを行き、彼らの前にあった雲の柱も移動して後ろに立ち、エジプトの陣とイスラエルの陣との間に入った。真っ黒な雲が立ちこめ、光が闇夜を貫いた。両軍は、一晩中、互いに近づくことはなかった。モーセが手を海に向かって差し伸べると、主は夜もすがら激しい東風をもって海を押し返されたので、海は乾いた地に変わり、水は分かれた。イスラエルの人々は海の中の乾いた所を進んで行き、水は彼らの右と左に壁のようになった。エジプト軍は彼らを追い、ファラオの馬、戦車、騎兵がことごとく彼らに従って海の中に入って来た。朝の見張りのころ、主は火と雲の柱からエジプト軍を見下ろし、エジプト軍をかき乱された。戦車の車輪をはずし、進みにくくされた。エジプト人は言った。「イスラエルの前から退却しよう。主が彼らのためにエジプトと戦っておられる。」

主はモーセに言われた。「海に向かって手を差し伸べなさい。水がエジプト軍の上に、戦車、騎兵の上に流れ返るであろう。」モーセが手を海に向かって差し伸べると、夜が明ける前に海は元の場所へ流れ返った。エジプト軍は水の流れに逆らって逃げたが、主は彼らを海の中に投げ込まれた。水は元に戻り、戦車と騎兵、彼らの後を追って海に入ったファラオの全軍を覆い、一人も残らなかった。イスラエルの人々は海の中の乾いた所を進んだが、そのとき、水は彼らの右と左に壁となった。主はこうして、その日、イスラエルをエジプト人の手から救われた。イスラエルはエジプト人が海辺で死んでいるのを見た。イスラエルは、主がエジプト人に行われた大いなる御業を見た。民は主を恐れ、主とその僕モーセを信じた。モーセとイスラエルの民は主を賛美して歌をうたった。

第二朗読 (使徒パウロのローマの教会への手紙 6章3~11節)

皆さん、あなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスに結ばれるために洗礼を受けたわたしたちが皆、またその死にあずかるために洗礼を受けたことを。わたしたちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。もし、わたしたちがキリストと一体になってその死の姿にあやかるならば、その復活の姿にもあやかれるでしょう。わたしたちの古い自分がキリストと共に十字架につけられたのは、罪に支配された体が滅ぼされ、もはや罪の奴隷にならないためであると知っています。死んだ者は、罪から解放されています。わたしたちは、キリストと共に死んだのなら、キリストと共に生きることにもなると信じます。そして、死者の中から復活させられたキリストはもはや死ぬことがない、と知っています。死は、もはやキリストを支配しません。キリストが死なれたのは、ただ一度罪に対して死なれたのであり、生きておられるのは、神に対して生きておられるのです。このように、あなたがたも自分は罪に対して死んでいるが、キリスト・イエスに結ばれて、神に対して生きているのだと考えなさい。

福音朗読 (マタイによる福音書 28章1~18節)

さて、安息日が終わって、週の初めの日の明け方に、マグダラのマリアともう一人のマリアが、墓を見に行った。すると、大きな地震が起こった。主の天使が天から降って近寄り、石をわきへ転がし、その上に座ったのである。その姿は稲妻のように輝き、衣は雪のように白かった。番兵たちは、恐ろしさのあまり震え上がり、死人のようになった。天使は婦人たちに言った。「恐れることはない。十字架につけられたイエスを捜しているのだろうが、あの方は、ここにはおられない。かねて言われていたとおり、復活なさったのだ。さあ、遺体の置いてあった場所を見なさい。それから、急いで行って弟子たちにこう告げなさい。『あの方は死者の中から復活された。そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれる。そこでお目にかかれる。』確かに、あなたがたに伝えました。」婦人たちは、恐れながらも大いに喜び、急いで墓を立ち去り、

弟子たちに知らせるために走って行った。すると、イエスが行く手に立っていて、「おはよう」と言われたので、婦人たちは近寄り、イエスの足を抱き、その前にひれ伏した。イエスは言われた。「恐れることはない。行って、わたしの兄弟たちにガリラヤへ行くように言いなさい。そこでわたしに会うことになる。」

#### 朗読解説 ー主任司祭より皆様へー

今日は本来ならば日没後、復活徹夜祭が行われます。今日のこの式は、いくつかの部分に分かれています。初めに光の式が行われます。これは罪の闇に覆われた人間の世界にキリストがその闇を打ち滅ぼす方として、光としてこられたことを表しています。復活節の祭壇に大きなろうそくが置かれているのをご覧になった方もおられるでしょう。また洗礼式やお葬式などにもこのろうそくが灯されます。私たちの側に光としてこられたキリストを表しているのです。それを最もよく表現しているのが助祭または司祭が唄う「復活賛歌」です。

次に、聖書朗読があります。今日は特別に旧約聖書が多く読まれます（少なくとも3つ）。これは旧約聖書が救い主の到来の歴史を述べているためです。

福音朗読は年によって読まれる箇所（マタイ、マルコ、ルカのうち）が違います。

次に、洗礼式が行われます。昔、洗礼式はいつの時期でも行われていましたが、現在は復活の主日に行われるようになりました。理由は、洗礼がイエス・キリストの死と復活にあやかることだからです。キリストとともに葬られ、キリストとともに復活することだからです。（もちろん他の季節にできないことはありませんが・・・）

その後は、信徒の皆さんも共に、洗礼の約束の更新が行われます。そして、感謝の祭儀が続きます。この感謝は私たち罪びとのために十字架上の生贄となったださり、私たちを再び神の国へ招いてくださる主キリストに対する感謝です。

#### 旧約書朗読1（創世記 1章1・26～31a節）

ここでは世界の創造が述べられています。これを読むとイエス・キリストによる神の救いの計画がどれほどの深さ、広さ、重さ、意味深さ、つまり深淵な計画、人が思いもつかない計画であったことが思われます。

## 旧約書朗読2（出エジプト記 14章15節～15章～1a節）

ここの個所は出エジプト記の中でも最もドラマチックな描写がされているところです。主なる神の導きのもとイスラエルの人々は悪の支配、奴隷状態からモーセと一緒に海の中を通過して脱出していきます。力強い聖書の言葉に耳を傾けましょう。以上の二つの朗読の他に理由があればあと一つ選んで朗読ができますが、司式司祭の裁量に委ねられているので、私（野口）が選んだものをここに紹介します。

## 旧約書朗読3（イザヤの預言 55章1～11節）

「渇きを覚えるものは皆、水のところへ来るが良い」。「聞き従って、魂に命を得よ」。と主なる神は飢え乾く私たちに呼びかけておられる。「主を尋ね求めよ、見出しうる時に」。「呼び求めよ、近くにいますうちに」。と、私たちに呼びかけておられる。私たちはいつになったらこの神の呼びかけに応えるのだろう。「いや、今でしょう（林先生）」。

## 新約書朗読（使徒パウロのローマの教会への手紙 6章3～11節）

ここでパウロは私たちが洗礼を受けたのは、その死に預かり、罪に死に、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、私たちも新しい命に生きるためだと述べています。この機会に洗礼を受ける方がたへの応援のメッセージであり、すでに洗礼を受けた人たちにもその恵みを思い起こすように勧めているのです。今年は典礼暦ではA年に当たりますので、マタイによる福音が読まれます。

## 福音書朗読（マタイによる福音書 28章1～10節）

ここでは安息日が終わった週の初めの日の明け方のことが記されています。マグダラのマリアともう一人のマリアが墓を訪ねると地震が起こり、墓の石が転がされ、主の天使が現れたのです。そして「あの方はかつて言われた通り、復活なされた。ここにはおられない。ガリラヤに行けばそこでお目にかかれる」と告げた。婦人たちは恐れながらも大いに喜び、急いで弟子たちのもとに走った。



弟子たちは寝ていたのでしょうか。婦人たちは「大変なことが起こった、あの方は生きておられる」と息せき切って告げたのでしょうか。愛するイエスのためには寝てるなんてできないマグダラのマリアの姿、行動力がすごいです。明日の朝、目覚めたときに私たちが一番最初に探すものは何でしょうか。「主イエスは復活なされた、アレルヤ！」と叫びましょう。

